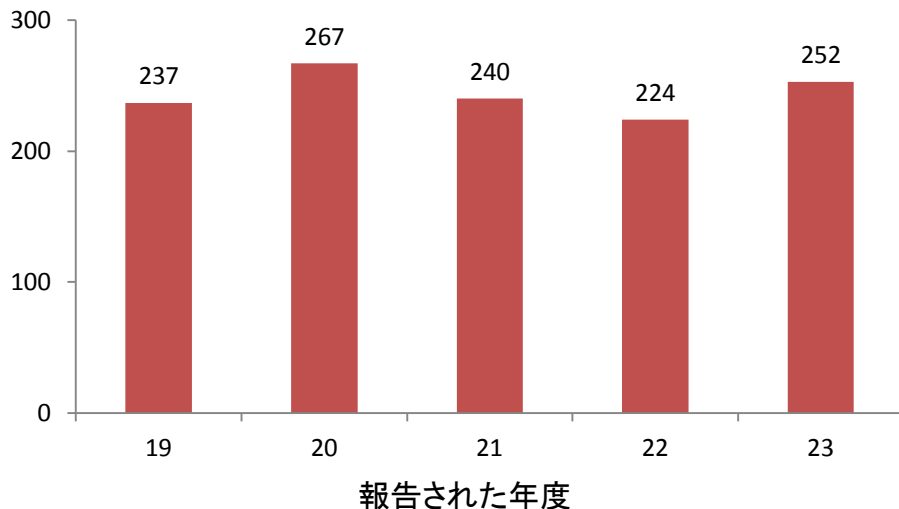


一般用医薬品によるものと疑われる副作用報告について

- リスク区分別の副作用報告症例数について、それぞれの市場規模や、商品数を基に、販売数当たり、又は一商品当たりの副作用報告数を粗い推計を行ったところ、第1類が最も高く、第2類、第3類と、リスク区分に従った数となった。
- 副作用の発生のしやすさの観点からは、第1類、第2類、第3類の順にリスクが高いと予測される。

一般用医薬品による副作用報告※1 年次推移



※1: 薬事法の規定に基づき国に報告された副作用報告症例数

リスク区分別の副作用報告症例数

	第1類	第2類	第3類
副作用報告症例数※1 (平成23年度)	12(例)	228(例) 内指定2類: 143(例)	12(例)
市場規模※2 (平成23年度)	401(億円)	6,409(億円)	2,604(億円)
販売数(1千万個)当たりの副作用報告症例数※3	6(例)	3.6(例)	0.5(例)
商品数※4	110(種類)	8,290(種類)	2,950(種類)
1商品当たりの副作用報告症例数	0.109(例)	0.028(例)	0.004(例)

※1: 薬事法の規定に基づき国に報告された副作用報告症例数

※2: インテージ SDI

※3: 1商品の平均価格を、第1類は2,000円、第2類は1,000円、第3類は1,000円と仮定して、市場規模から年間の販売数量を推計し、販売数1千万個当たりの副作用報告症例数を算出(平均価格データ: 日本チェーンドラッグストア協会提供)

※4: 平成24年10月時点の概数